

## 資源回復計画（トラフグ）に関する研究

(予算区分 交付金 研究期間 平成17年～)

担当：浜名湖分場

### 【研究の背景とねらい】

静岡、愛知、三重、3県の共通の資源であるトラフグ伊勢・三河湾系群の資源水準を、漁期前の試験操業や市場調査による漁獲物の年齢組成と漁獲統計資料の解析から評価し、持続的な利用が可能な適正漁獲量を推定します。また、10～2月に操業されるはえ縄漁業の収入増大を図るための操業方法について提言します。

### 【これまでに得られた成果】

(平成18年度までの成果)

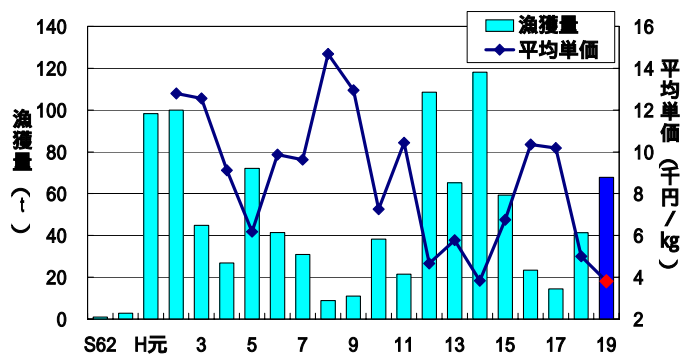
- ・トラフグ漁獲量は不定期に発生する卓越年級群の影響により大きく変動しました。
- ・現状のトラフグに対する漁獲圧は加入量あたり最大の漁獲量が得られる最適な漁獲圧の約1.8倍と推定され、過剰の漁獲圧がトラフグにかけられていると考えられました。
- ・はえ縄漁期に水揚げされるトラフグは漁期中に成長による増重がみられ1歳魚では漁期終了時には平均で1.6倍ほど、単価は年末にかけて平均1.8倍にも増加することがわかりました。

(平成19年度の成果)

- ・調査船「駿河丸」による試験操業の結果、平年の3倍近い(針100本あたり)5.4尾が釣獲されました。この結果と前年の当歳魚の漁獲状況等から、今漁期の資源水準は前年の1.5倍程度高く、漁獲量は55～60トンと予測され、結果は67.8トンでした。
- ・漁獲量は67.8トンで前年の1.6倍、平年の1.4倍と好漁でしたが、平均単価は4,000円以下と過去最低となりました。特に単価の最も安い10月に漁獲量の4割以上を漁獲しており、魚価対策のための操業規制を検討する必要があることがわかりました。



試験操業で釣獲されたトラフグ



静岡県におけるトラフグ漁獲量と平均単価の推移

### 【期待される成果】

- ・試験操業や漁獲物の年齢組成と漁獲統計資料を解析することにより、トラフグ伊勢・三河湾系群の資源水準を把握することができます。
- ・トラフグの資源水準を把握することにより、持続的な利用が可能な適正漁獲量を推定することができます。

### 【今後の計画】

- ・継続して市場調査や試験操業を行い、漁獲物の年齢組成と資源水準を把握します。
- ・持続的な利用が可能な適正漁獲量を推定し、魚価対策のための操業規制や効率的な漁獲方法を提言します。

(作成 平成20年4月)